

紙面から

教育随想

「親父の『におい』」

国立教育会館研修総務課長

横山 正樹氏

羅針盤

「子供を引き込む自然さがし」

理科指導員 塩澤 順治

この人に聞く

「タピスリー・造形作家」

堀 佐知世氏

特集

岡崎再見「家康・家光と岡崎」

岡崎市の教育予算

ふれあい

「ひとつの朝」

葵中学校 富田 好己

師弟同行

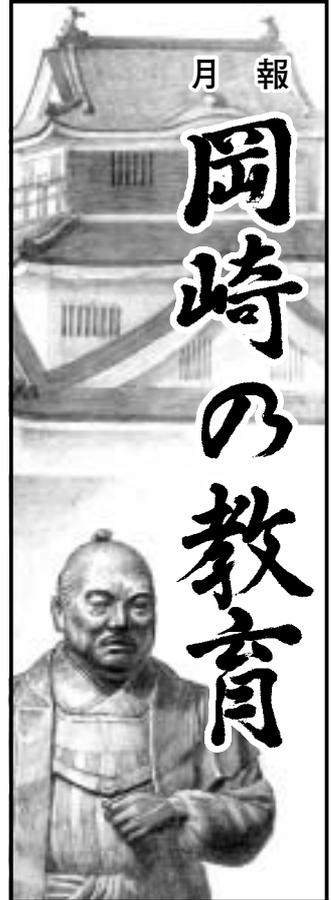
前井田小学校長

熊谷 満義

上地小学校 小田 昌男

フォト・ヒストリー岡崎の教育

野鳥保護活動(昭和二十七年)



6月号

平成12年6月1日

発行／編集
岡崎市教育委員会

今月の学校紹介
～福岡中学校～



私は奥三河に位置し、一般には「花祭りの里」として知られている北設楽郡東栄町で三人兄弟の次男坊として生まれ育った。とはいっても山、川といった自然と高齢者だけが目立つ典型的な過疎地の宿命か両親と一緒に生活したのは中学卒業までの十五年間だけで、高校進学と同



時に親元を離れての生活となった。親父との十五年間を振り返ってみるのだが、特段厳しくしつけられたという印象はないし、親父が子育てについて明確なビジョンを持っていたとも思えない。だがよくよくその当時を思い起こしてみると、畑仕事、薪づくりなど多くの手伝いをしたこ

と（私の左手人差し指には鋸で誤って切った傷跡が今も残っている）とか、ワラビ取り、蜂取り、鮎釣り、山芋掘りなど四季折々に野山を一緒になって駆けめぐったこと、また仕事（製材業）から帰宅後おが屑の「におい」をさせながらうまそうに晩酌をする姿などが浮かんでくる。

— 教育随想 —

親父の『におい』



国立教育会館
研修総務課長

横山 正樹

文部省が平成十年度に行った「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」によれば、生活体験、自然体験、手伝いの経験が豊富な子どもほど道徳観・正義感が充実しているとの結果が出ている。私自身道徳観・正義感が取り立てて充実しているとは思わないが、過疎地の数少な

い特長といえる恵まれた自然環境の中で、親父に連れられて無意識のうちには様々な体験ができたことはプラスになっていると思う。手伝いをすることにより根気強く取り組むことを、自然とのふれあいを通しているんな角度から工夫することの大切さを教わったこと、それから何より親父の仕事の「におい」を通して、一生懸命働いている姿を感じ取ることができたこと（父親の存在感を認識できたこと）は大きい。

ひるがえって現在は様々な体験の機会を子どもたちが日常的に得ることができた時代と異なり、意識的に子どもたちに活動や体験の機会を提示することが必要になってきていると言われている（私の田舎でさえ護岸工事により川魚が確実に減少してきている）。自然を利用して無意識に子育てができた親父の世代より意識した取り組みが必要な現在のほうがその分大変なのかもしれない。そんな私も毎朝自転車に三歳の長女を乗せ、途中保育園に送り、職場まで通う毎日を送っている。この子にどのような父親の「におい」を感じさせることができるか、父親の存在感を示すための試行錯誤の取り組みが続いている。（よこやま まさき）



子供を引き込む自然さがし

理科指導員

塩澤 順治

「羽のところが割れてきたから、もうすぐ生まれるよ。」

「出てくる。出てくる。動き出した。」

「出たあ。」

S 小学校の Y 先生は、三年の総合単元『みんな一生けんめい生きていく』の中で、モンシロチョウの飼育活動を通して、卵から幼虫、成虫への成長過程を観察させている。本時は、モンシロチョウの羽化の様子を授業の中で再現する展開を構成している。さなぎにまで大切に育ててきたモンシロチョウが、目の前で成虫へと姿を変えていくさまは、子供たちにとって神秘的であり、まさに感動的であった。

「あっ、脱皮が始まった。」

「羽がしわしわで震えているよ。」

「うんちしたよ。」

「とまり木を上に登って行ったよ。」

ふるさとシリーズ
この人に聞く



タピスリー・造形作家

堀 佐知世 氏

ベルギーで本格的にタピスリーを学ばれ、今年の一月、初の個展「新しい風」を開かれた堀さんをお訪ねした。

「タピスリーは、中世のフランスやベルギーなどで、城の壁を飾る装飾品として発展してきました。」
日本で「タペストリー」と呼ばれ、広く壁掛けとして知られているものとは違い、重厚な「織り」の芸術である。

きっかけをお聞きした。
「文学を学んでいたころ、好きな作家の作品にタピスリーが登場し、

心を引かれるようになりました。その後、パリで本物のタピスリーに出会うという偶然も重なり、この世界に入りました。」

その後単身、ベルギーに渡り、フランス語を習得しながら、ベルギー王国ブリュッセル王立美術アカデミーに入学し、本格的に学ばれることになった。

「絵画や写真は平面的で視覚に訴えるものですが、タピスリーは『織り』です。『織り』は、視覚だけでなく、触覚に訴える特質があります。それらの性質を踏まえつつ、一般家庭向けの小さなものから壁画のような大きな作品まで、いろいろ制作されています。」

実際に今、手掛けている作品を見せていただいた。高さ二メートル、幅二メートルにわたり、何百本ものくぎが打たれ、たこ糸のような丈夫な糸が縦に張られている。そこに専用の羊毛が横糸として渡され、縦糸が表に出ないように、何色かの色を束ね、モチーフを織り出している。最後に作品がどう生まれてくるかをお聞きした。

「感動からだと思います。自分が受けた感動をどう伝えるか。一瞬の感動を凝縮して、感じたままに下

絵を起こし、そして『織り』にいたらと思います。」

ベルギーでは、既にいくつかの賞を受賞した堀さん。今後は日本で本格的なタピスリーの創作と普及に力を注いでいきたいという。

一目一目織り成した、何年も何十年も、決して色あせることのない優しいぬくもりを持つ作品は、堀さんそのものであるように思えた。

氏 名 ほり さちよ
生年月日 昭和四十六年四月六日
住 所 河原町十八—十二



「羽がだんだん伸びてきたよ。」
「やったあ、飛んだ。」

自然のすばらしさに引き込まれた子供たちは、目を輝かせ、モンシロチョウの変化に見入っている。そして次から次へと新しい発見をしている。子供たちが描いたスケッチには、体全体の形から羽や足の細部にわたる特徴が正確に記録され、驚かされるものばかりであった。

ところで、モンシロチョウの羽化は、授業開始から十五分後に始まるように仕組まれていた。学年の先生方の協力を得ているとはいえ、理科が専門でないY先生にとつて、羽化の進行を調節することは並大抵の苦労ではなかったと推察できる。さなぎの色や形、透けて見える体の状態を注意深く観察しながら、冷蔵庫を利用して調節していく。何度も何度も失敗を繰り返し、体験の中から出すタイミングを知る以外に方法はないのである。こうした地道な教材研究があつて成功に結び付いたということも見逃してはいけない。

【推薦する専門書】

『新しい教育課程と学習活動の実際』

東洋館出版社

『理科十総合的学習実践 34例』

明治図書



家康・家光と

岡崎



徳川家康画像

ろうか。

徳川家康ゆかりの地を訪ねてみた。家康は、岡崎城内で松平広忠の子として生まれた。城内には、誕生の際に使った産湯の井戸やへその緒を埋めたえな塚などが木立に囲まれてひっそりと残っている。

市内には、家康が創建した寺がある。隋念寺と松応寺である。隋念寺は祖父の松平清康とその妹・久子の菩提のため

に建立した寺である。寺の正面へは石段が続き、両側にある白塗りの土塀が落ち着いたたずまいを感じさせる。松応寺は、父の墓の近くに建立した寺である。裏手には、父の墓の所在を示すお手植えの松（現在は切株のみ）がある。その寺号は、松が念願どおり茂り、人質の身であった自分が三河の地に帰ったことを喜び名付けたものである。

二代將軍秀忠と三代將軍家光も上洛途時に参拝している。秀忠・家光が擁護した寺社はいくつかある。大樹寺、伊賀八幡宮、六所神社などである。大樹寺は、松平家・徳川家の菩提寺である。家康以降十四代將軍までの等身大の位牌が納められており、家康の身長は百五十九センチであったことが分かる。本堂から三門、総門を通して岡崎城を望めるように造られており、今もその景観は守られている。両家の主護神としての伊賀八幡宮、家康の産土神としての六所神社はどちらも色彩華やかな権現造りで、本殿・拝殿・幣殿の位置が共通していることも興味深い。これらの寺社は、秀忠・家光により石高の加増や建物の造営が行われ、その後も、幕府によって改修・整備が行われてきた。



家康産湯の井戸（岡崎公園）



家康のえな塚（岡崎公園）



徳川将軍家菩提寺・大樹寺（鴨田町）
と家康位牌。下は寛永期の大樹寺図絵



家光再建の六所神社（明大寺町）
と家康の手形

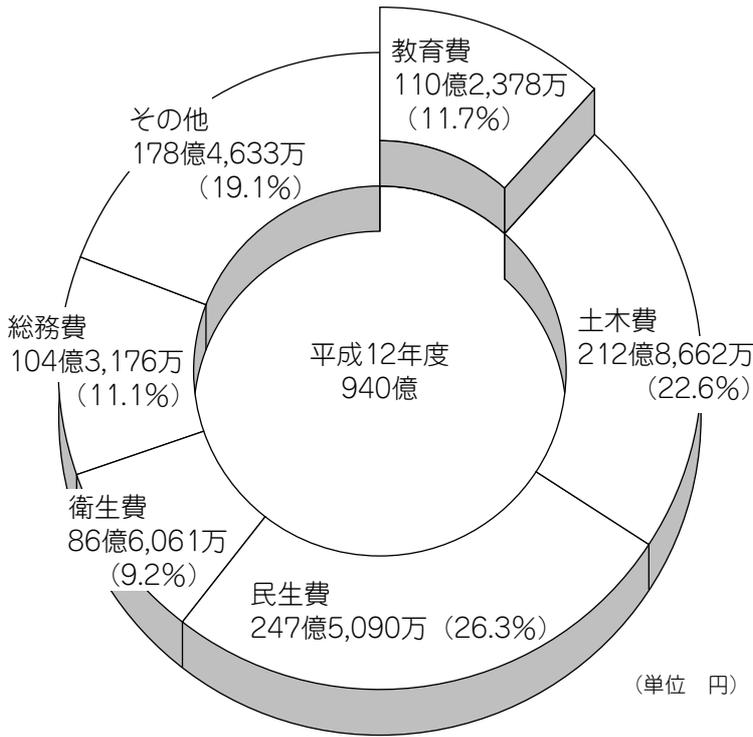


家康が松を植えた松応寺（松本町）と
家康が贈った香合



家康創建の随念寺（門前町）と家康が贈った雲版^{うんぼん}

〈一般会計予算〉



文化の薫る
人間性豊かなまちづくり

岡崎市の教育予算

◆ 本年度の特色 ◆

造成		校舎耐震補強		屋内運動場増改築		小中学校施設の設備
中学校	中学校	小学校	小学校	小学校	小学校	
二校	一校	一校	一校	二校	二校	



▲校舎増改築 (福岡小学校)

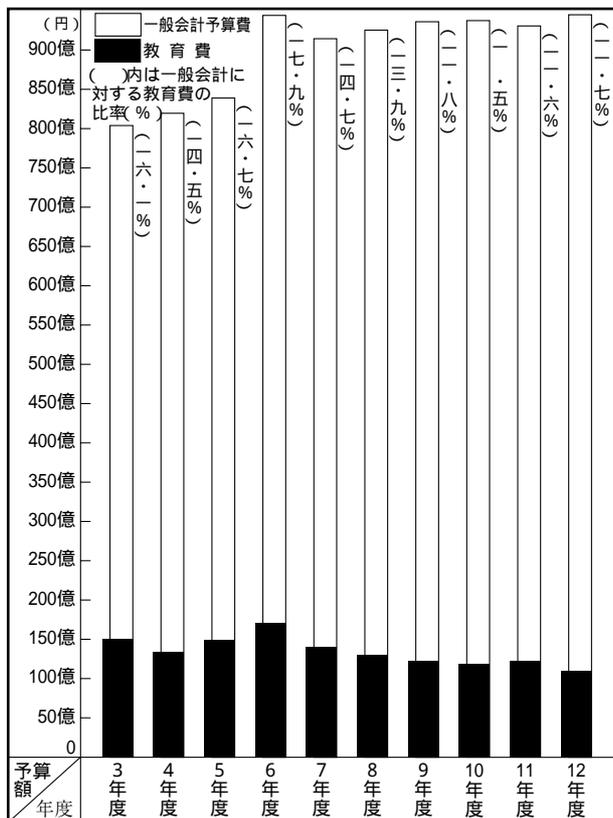


▲校舎耐震補強 (城北中学校)

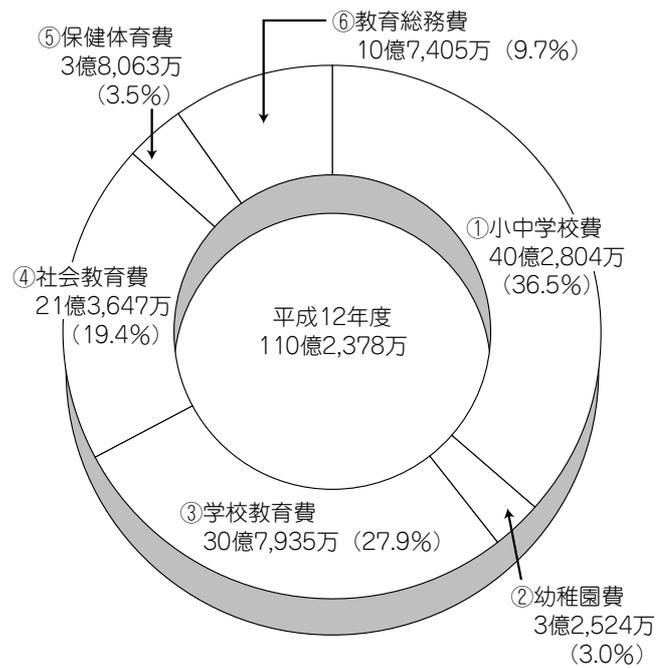


▲造成 (竜海中学校)

◆ 一般会計予算費と教育費の推移

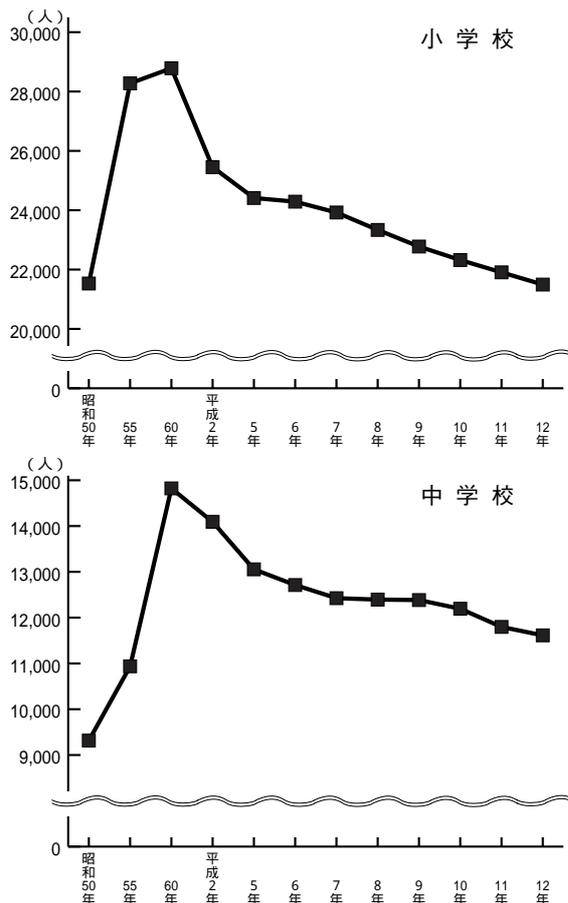


〈教育費の内訳〉



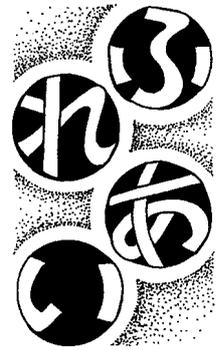
(単位 円)

◆ 児童、生徒数の推移 (数字は各年5月1日現在)



◆ あらまし ◆

- ①小中学校費
 - ・屋内運動場増改築 (愛宕小, 連尺小)
 - ・校舎耐震補強 (羽根小学校, 甲山中学校)
 - ・造成 (竜海中学校, 常磐中学校)
- ②幼稚園費
 - ・市立幼稚園3園管理事務費など
- ③学校教育費
 - ・行事開催事業委託及び指導研修
 - ・教育の振興, 研究助成
 - ・児童生徒の健康保持
 - ・小中学校各種スポーツ大会開催
- ④社会教育費
 - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
 - ・図書館の管理運営
 - ・視聴覚ライブラリーの管理運営
 - ・少年自然の家の管理運営
- ⑤保健体育費
 - ・体育振興事業
- ⑥教育総務費
 - ・私立高校授業料補助金
 - ・私立幼稚園入園料補助金
 - ・岡崎育英会学生会寮運営費補助金



ひとつの朝

葵中学校

富田 好己

「先生、もう一度『ひとつの朝』を歌わせてください。」
合唱コンクール後の教室で、目に涙をいっぱいためながらA子が叫んだ。クラス全員が泣きながら、必死に声を絞り出して歌い始めた。だれもが願った最優秀賞。だが、惜しくもあと一歩及ばなかった。その無念を晴らすかのようにみんなが心を込めて歌った。最優秀賞以上の感動があった。合唱曲が『ひとつの朝』に決まったのは、どのクラスよりも遅かった。朝練習をやり始めたが、時間不足は否めなかった。伴奏者であるA子は、「朝、もう少し早く集まって、合唱をやらせてください。」と生活ノートに書いてきた。私はA子の思いを無駄にし

まいと、クラスに呼びかけた。A子はだれよりも早く登校し練習した。その熱い心が次第に全体に浸透していった。

文化祭前日、曲のイメージに近づくため、みんなで朝日を見た。光り輝く朝日。まさに感動のひとつの朝であった。いよいよ合唱コンクール。

私は、みんなで見た朝日の写真を一人一人に手渡した。クラスの気持ちが一つになり最高潮に達した。だれもが熱唱し、すべてを出し尽くした。数日後、クラスのみんなから一枚の賞状がA子に渡った。A子の健闘をたたえた寄せ書きで埋め尽くされた賞状が……。「みんなありがとう……。」A子の頬に涙が伝わった。



師弟同行

先生からの言葉かけ

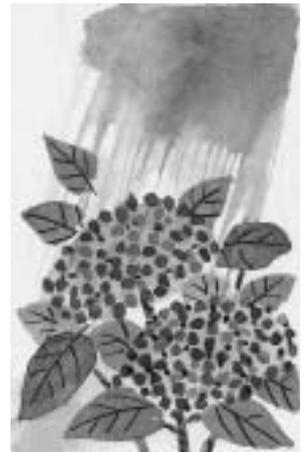
上地小学校

小田 昌男

「昌男君、参加した方がいいよ。」

松葉づえ姿のわたしに、先生はそうおっしゃいました。わたしは部活動で左足首を骨折して、あこがれのユニホーム姿での総合体育大会の入場行進を断念しました。その数週間後に修学旅行を控え、両親からは「先生や友達に迷惑をかけるから、修学旅行はあきらめたらどうか」と諭され、暗い気持ちになっていました。そんな中で先生の一言です。

国会議事堂では、階段が上れないわたしに付き添い、一緒にエレベーターに乗ってくださった先生が、「おかげで



国会議員しか乗れないエレベーターに乗ることができたよ」とおっしゃいました。

わたしのために、どれほど行動が制約され、御心配をかけたことでしょうか。今も、あのときの先生の温かい言葉かけが忘れられません。日々、子供の立場になり、さりげなく言葉をかけ、喜びと自信、やる気を与えてくださった先生でした。そんな先生の姿を学んでいきたいものです。

友愛と温もり

前井田小学校長

熊谷 満義

昌男君たちの三年三組を受け持ったのは、昭和五十一年の四月でした。わたしが南中へ赴任してから二年目のことでした。南中では、わたし

は初めての卒業学年担任ということで、緊張していました。君たちはリラックスしていました。

素直な君たちと、しかも、松葉づえの昌男君と修学旅行を終えられたことは、一生の良き思い出です。

学級で一番体格の良い君、しかも、石膏で固めた足をかばい、痛々しい松葉づえの君を、級友たちはよく支えてくれました。しかし、後で君が綴った『修学旅行記』を読んで、更に、友愛と温もりの関係について考えさせられたことを思い出しました。

それは、「友達には、大変面倒をかけたし、有り難かつた。しかし、華厳の滝への急斜面は、その足では無理だということ、友達に見捨てられて僕は見ることができず、悔しかった」という部分です。ここに、人の心を見抜く君の鋭さを知った覚えがあります。秋の文化祭で、学級歌発表会の指揮者として大活躍をした当時の君と、今の君とをわたしは誇りとしています。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
一校当たり 児童・生徒数	518人	645人
一校当たり 学級数	17学級	19学級
一学級当たり 児童・生徒数	30人	34人

◆**小中学校のようす**
 平成十二年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。学校や学級の数、児童生徒と教職員の数を表に示した。児童生徒の数は、年々減少の傾向にあり、教育現場での課題を整理しておきたい。



●児童・生徒・教職員数

区分	学校数 (校)	学級 〈特殊〉 (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教職員(人) (非常勤講師を含む)			養護教員 (人)	事務職員 (人)		栄養職員 (人)
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	
小学校	42	707〈50〉	10,908	10,586	21,494	403	637	1,040	42	0	7	
中学校	18	339〈24〉	5,906	5,707	11,613	414	244	658	20	9	2	
合計	60	1,046〈74〉	16,814	16,293	33,107	817	881	1,698	62	9	9	
昨年度合計	60	1,062〈71〉	17,172	16,531	33,703	824	880	1,704	62	9	8	

●学年別児童・生徒数（人）

小学校							中学校				
学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	1,788	1,782	3,570	4年	1,822	1,731	3,553	1年	1,964	1,927	3,891
2年	1,767	1,702	3,469	5年	1,832	1,778	3,610	2年	1,962	1,843	3,805
3年	1,796	1,729	3,525	6年	1,903	1,864	3,767	3年	1,980	1,937	3,917



▲昨年度の呼和浩特使節団一行
 — 内蒙古博物館の前にて —

◆**親善訪問使節団の派遣**
 岡崎市は、友好都市提携を結んでいる中国内蒙古自治区呼和浩特市（フフホト）市へ、中学生を派遣し、今年で十三回目となる。
 結団式が五月十一日に行われ、六月十四日から九日間の日程で呼和浩特市や大草原などを訪問する。スポーツ交流やホームビジット、パオでの活動を楽しみにしている。
 使節団は、次の皆さんに決

- | | | |
|------|-------|-------|
| （生徒） | 竜海中 | 伊東 正朗 |
| | 河合中 | 太田 律子 |
| | 畔柳 | 翔太 |
| | 本間かほり | |
| | 樋口 恭亮 | |
| | 常磐中 | 小林 宝子 |
| | 六美中 | 杉山 仁 |
| | 矢北中 | 貴田恵理子 |
| | 石川 大輔 | |
| | 傍島 由夏 | |
| | 新香山中 | 大西 徹 |
| | 加藤 愛 | |
| （教員） | 細川小 | 三津井秀夫 |
| | 三島小 | 野々山宣子 |

・カ
ツ
ト
甲
山
中
山
田
泉
美



野鳥保護活動

(昭和27年)

東海中学校では、昭和二十七年、「愛鳥クラブ」が発足し、巣箱作りから活動が始まった。出来上がった巣箱を学校近くの山林に取り付け、野鳥（ヤマガラ）の生態観察を行った。その観察記録をまとめ、学区内で発表会を開いたり、各大会に応募したりしたところ、昭和二十九年、文部大臣より表彰された。この外にも河合中や生平小などが、古くから取り組んでいる。

現在でも、野鳥を始め、ゲンジボタル、カワバタモロコなどの保護活動を行っている学校があるが、『総合的な学習』が本格実施されると、このような自然や環境にかかわる活動が盛んになることが予想される。



写真提供 東海中

新時代を切り開いた先駆者は、どの時代でも先を見通す目を持っていた。幼い時から幾多の苦難を乗り越えた家康公もそうである。冷静に時代の流れをつかみ、的確な判断を下す。家康公が残した足跡は奥が深く、わたしたちに多くを語りかけてくれている。

シ オ ス ア

スカンポとも呼ばれるスイバの穂が風に揺れる季節となった。昔日のわんぱく坊主が口にした甘酸っぱい味を知る現代の子は、どれほどいるだろうか。遊び道具が豊富になる中、草花遊びが消えつつある。自然と戯れる楽しさを次世代に伝え残したいものである。

「織り」の芸術タピスリー。始まりはたった一本の糸。一本では頼りなげなのに、二本、三本と束ね織り出されていくと、なんと重厚で温かいぬくもりを持つのであるうか。「織り」は、可能性を無限に広げる人の関係に似ている、と堀さんは言う。

愛鳥クラブによる野鳥保護活動が始まったのは、四十八年前のこと。手作りの巣箱を取り付ける時の期待と不安。その巣箱にヤマガラを見つけた時の喜び。このような感動こそが、自然や環境の保護活動の原動力になっていることを実感。



- *現代の少年非行 萩原 恵三
大日本図書 ￥950
- *カムバック！先生 浅井丈子
樹心社 ￥1800
- *私の目は死んでない！ 妹尾 和弘
評論社 ￥1900
- *子どもがとらえた教育環境
指定都市教育連盟
東洋館出版社 ￥2000

*泥の花—今、ここを生きる 水上 勉
河出書房新社 ￥1600
心筋梗塞で心臓の3分の2が壊死、80歳の高齢で網膜剥離の手術。波瀾万丈といっても過言でない著者の、渾身の人生論で埋め尽くされている。

多くの職業を遍歴した著者は、80歳になった今、苦闘と挫折の連続したこれまでの人生を振り返り、その挫折が次の飛躍への扉であると言い切る。

「人間とは何か」「人生とは何か」を著者独特の極めて重みのある口調で、語りかけてくれている。